

小美玉市の歴史を知ろう43

航海安全の女神——天妃尊——

てんぴそん

小川の天聖寺斎場にある小さな祠をご存知でしょうか。この祠の中には、小美玉市指定有形文化財にもなっている「天妃尊」が安置されています。黒く塗られた厨子に納められたこの像は椅子に座り、両手で团扇を持つっています。大きさは30cm程度で色彩豊かな寄木造となっています。

「天妃」とは、千年ほど前に中国の沿岸部で航海安全の守護神として信仰が始まり、一般的には「媽祖」と呼ばれています。江戸時代になると、船玉信仰とも結びつき、日本各地に伝えられました。日中交流の関わりのなかで沖縄、鹿児島、茨城、青森などに五〇体ほどの「天妃」像が残されています。近年には横浜中華街にも横濱媽祖廟が建立されています。

どうして、中国で信仰されていた「天妃」が遠く離れた小美玉にその足跡が残されているのでしょうか。そこには、水戸藩主徳川光圀公の存在があります。



天妃尊が安置されている祠



天聖寺の天妃尊

天聖寺は廃寺となり、壇頭家に預けられました。時代は流れ、昭和五十一年、天聖寺斎場が完成すると、現在の場所に戻されることになります。通常は、祠の扉は閉じており、そのお姿を拝見することはできませんが、お盆、春と秋のお彼岸の時期には扉が開けられ、公開されています。

光圀公は、中国清の庄政から逃れ、海を渡り、長崎興福寺に住していた禪僧、東臯心越を水戸藩に招き入れました。そして、心越が海を渡った際に航海安全のために持参した「天妃」像の話を伝え聞き、その分霊を三体作らせたとされています。

江戸時代の小川は、水戸一江戸間での舟運の要衝として繁栄していました。また、同じく水戸藩内において舟運で栄えた北茨城市磯原、大洗町磯浜とあわせて、光圀公は、その三体の「天妃」像を下賜したとされています。

小川では、心越が開山した水戸祇園寺の三世、蘭山が小川天聖寺の開祖になつたこともあります。天聖寺に「天妃尊」が安置され、歴代住職によって尊崇されていました。しかし、天聖寺は、幕末の動乱に巻き込まれ、寺勢は衰え、明治三年（一八七〇）には焼失してしまいます。その際、「天妃尊」は難を逃れましたが、

2%割引セール



私がお伺いします

当店は税込価格表示です

畳工事

アミ戸

張替

障子

張替

襖

張替

スキマ、凹凸を直し綺麗に納めます
3,850円～

細かい網目使用

ブラック・グレーネット共通価格

大サイズ 2,200円

上級紙隅々までふき取りして納めます

大サイズ 2,420円

ご注文の方にはたて付け直しサービスです

2,750円～

国産畳表のお店
江戸時代創業

相川畠店 0299(26)0669
石岡市旭台1-15-1

結 × 婚

良縁のご紹介

初婚・再婚

*プライバシーは厳守致します。

*個性を大切に誠心誠意
お世話させていただきます。

*出会い～お見合い～交際もサポート。

アイ

マリッジスクエア

0299-27-1581

*御来店予約制

Future Navigator

柴崎榮宮

IMS認証取得



〒315-0037 石岡市東石岡4-6-25 東地区公民館隣

*介護施設無料紹介*茨城県指定障害福祉サービス事業所りんご館